

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立築瀬小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 83人

② 算数 83人

5 留意事項

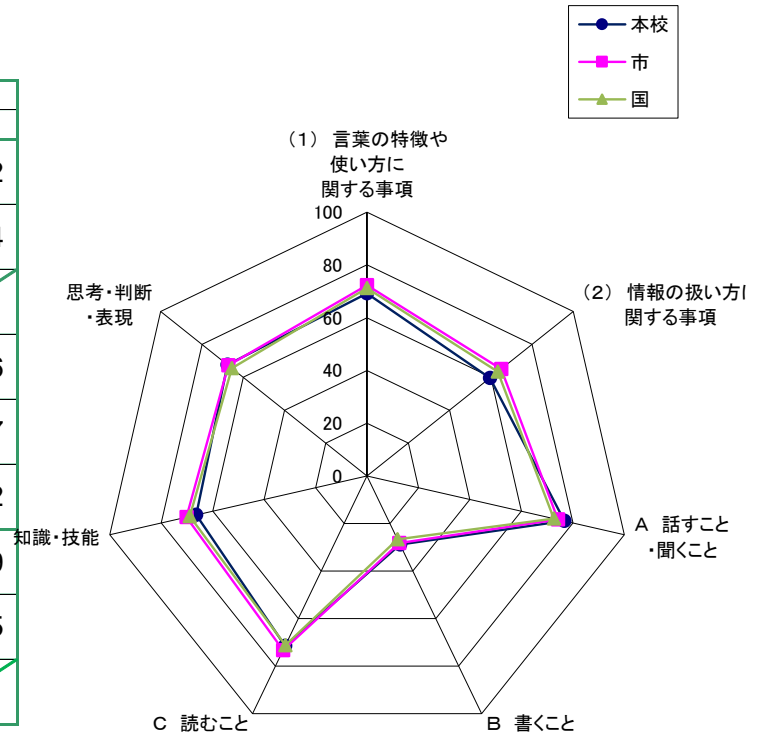
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立築瀬小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	69.2	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	59.6	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	76.7	74.2	72.6
	B 書くこと	28.9	28.2	26.7
	C 読むこと	71.5	73.3	71.2
観点	知識・技能	66.4	70.2	68.9
	思考・判断・表現	67.6	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

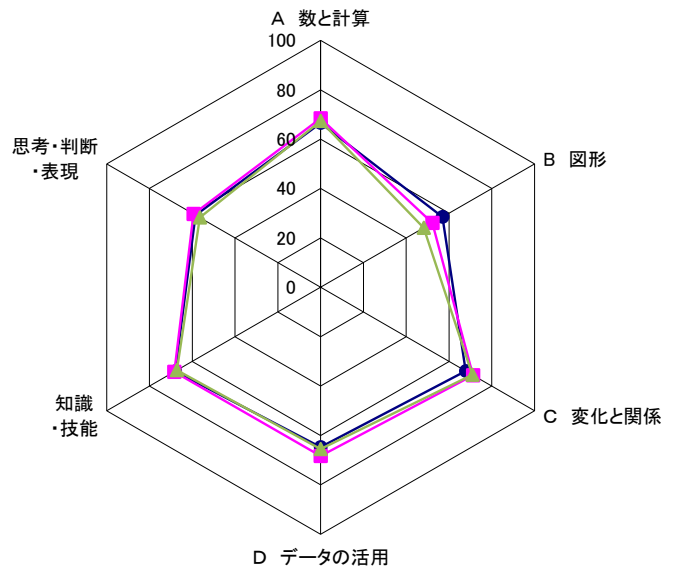
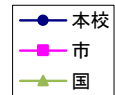
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を下回っている。</p> <p>○文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる問題では、平均正答率が80.7%でおおむねできている。</p> <p>●漢字を正しく使うことに課題が見られる。同音の漢字や正しい送り仮名についての理解が不十分である。また、日常使われる敬語の理解についても</p>	<p>・今後も、語彙を豊かにする活動や文章の中で言葉のもつ役割について考える活動を充実させていく。</p> <p>・漢字の習得については、文字としてだけでなく言葉としてとらえさせ、意味を考えて正しく使うようにさせたい。そのため、漢字ドリルの活用を工夫したり、小テストを行ったりしていく。</p> <p>・敬語については、国語の時間に限らず、日常生活の中で正しく使えるように指導していく。</p>
(2) 情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を下回っている。</p> <p>●原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題での平均正答率は、市の平均を4.4ポイント下回っている。</p> <p>●情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の仕方を理解しているかどうかを見る問題で、課題が見られた。</p>	<p>・今後、授業の中で情報と情報を関連付けて読み取ったり、図を用いて関係性をまとめたりする活動を取り入れていくとともに、総合的な学習の時間や社会などの他教科、他領域でも、情報の読み取りについて文章化するなどして、教科横断的に学習を進めていく。</p> <p>・カードやパンフレットなどの資料を読み取る際には、内容だけではなく、情報と情報の関係性を考えるような活動を取り入れ</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均を上回っている。</p> <p>○インタビューの様子から、質問の理由として適切なものを選択する問題は、よくできている。低学年から、インタビュー活動などに慣れ親しみ、質問を吟味する活動を蓄積してきた成果と考えられる。</p> <p>●話の内容を捉え、話し手の考えと比べながら自分の考えをまとめることに課題が見られた。</p>	<p>・今後も、目的意識や主題を明確にした話し合い活動を行っていく。</p> <p>・話し手の考えと比較して自分の考えをまとめるには、書く力(要素)も必要になってくる。今度は、話を聞いた感想や自分の考えを書き表す活動を意図的に取り入れるようにする。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は、市の平均をやや上回っている。</p> <p>○資料を基に決められた条件に当てはめて文章を書く問題で、図表やグラフを読み取り、自分の考えが伝わるように書くことが市の平均を0.7ポイント、国の平均を2.2ポイント上回った。</p> <p>●市や国の平均正答率を上回ったとはいえ、書くことの正答率は、28.9%と低く、課題である。</p>	<p>・今後も、様々な場面で自分の思いや考えを書く活動を行う。</p> <p>・文字数や資料を活用するなどの条件に合わせて書く学習を意図的に取り入れていく。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率は、国の平均とほぼ同じであるが、市の平均を1.8ポイント下回った。</p> <p>○目的に応じて必要な情報を見付けたり、文章を読んで理解したことをもとに自分の考えをまとめたりする問題は市の平均正答率を上回り、できていた。</p> <p>●目的を意識して、中心となる語や分を見付けて</p>	<p>・読み取った文章を要約する力を高めるために、言葉を系統的に捉えたり、分類したりする活動を行っていく。その中で、キーワードになる言葉や文章に着目できるようにしていく。</p> <p>・複数の文章を比べて読み、類似点や相違点を見付けるなどして、文章をまとめることができるようにしていく。</p>

宇都宮市立築瀬小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	66.5	68.4	67.3
	B 図形	56.9	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	67.8	71.2	70.9
	D データの活用	64.7	68.3	65.5
観点	知識・技能	68.0	68.4	67.2
	思考・判断・表現	58.5	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、全国平均よりやや下回っている。 ○()を用いた式や加法と乗法が混ざった式などの意味を理解している。授業で反復して数の意味を確認している成果であると考えられる。 ●「以上」「以下」「未満」についての理解が不十分である。</p>	<p>・実生活と結び付けた活動を取り入れ、知識の定着を図っていく。 ・基本的な問題に加え、発展的な問題に取り組ませることで、力を高めていく。</p>
B 図形	<p>すべての問題で国の正答率を上回っている。 ○特に四角形の名前や性質を選ぶ問題において、正しく答えられた児童は71.1%で、国の平均より11.3ポイント高かった。授業で具体的に図形を操作する活動を多く取り入れた成果と考えられる。 ●正三角形の意味や性質について理解していない児童が多く見られる。</p>	<p>・図形に対する感覚を豊かにするために、色板並べやパズル等、学年の発達段階に合わせた学習を適宜取り入れる。 ・図形の学習に入る前には、既習事項を確認し、基礎基本の定着を図る。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、国や市と比べて下回っている。 ○百分率の問題においては、国や県の平均正答率を上回っている。基準量と比較量の関係を扱った問題に多く触れる場面を設定したことの成果であると考えられる。 ●伴って変わる二つの数量について表から変化を読み取る問題について正しく答えられた児童は、国の平均より6.8ポイント低く、表を活用し必要な情報を読み取ることに課題が見られる。</p>	<p>・表から必要な情報を正しく読み取ったり、分かることを予想したりするなど、表を活用する問題に多く触れさせたい。 ・伴って変わる二つの数について比例の関係とはどういう場合なのか表から理解できるようにしたり、式が意味することについて理解できるようにしたりするために、繰り返し学習する場面を設定していく。 ・式の説明を書かせる際に、例文を示したり、定型文などを用いさせたりして、考えを表現する方法を身に付けさせたい。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は、国や市と比べて下回っている。 ○二次元の表について条件に合った数を読み取る問題については国の平均より5.3ポイント高かった。二次元の表については授業中扱うことが多く児童にとって見慣れていていると考えられる。 ●棒グラフを扱った問題については、複数の情報が混ざった状態で読み取る経験が少なく、他の問題よりも無回答の児童が多く見られた。</p>	<p>・どのグラフから情報を読み取ったのか、根拠を明確にしたり、読み取った情報と関連付けたりして考え、順を追って丁寧に読み取る活動を行うようにする。 ・生活の中で、その場面に適した表やグラフを活用する機会を多く設ける。</p>

宇都宮市立築瀬小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

1 生活習慣について

○●毎日、同じくらいの時刻に寝ているかについての肯定的回答が82%で、全国の平均よりも高いが、毎日、同じくらいの時刻に寝ていない児童も16.8%いて、栃木県の平均より高くなっている。また、毎日、同じくらいの時刻に起きているかについての肯定的回答は86.5%で8割を超えているが、栃木県、国の平均を下回っている。決まった時刻に寝たり起きたりするなどの大切さや規則正しい生活について授業で指導すると共に保健だよりや学年だより等で家庭への啓発活動も続けていきたい。

2 自分自身や他人や社会との関わりについて

○先生は、あなたのよいところを認めてくれているかについての肯定的回答が92.1%と9割を超えていて全国の平均よりも高い。今年度の本校の重点指導事項である「自分のよさの自覚」の中の「見つけた子供の良さは、そのとき、その場で伝える」「認められることの喜びを実感させる取り組み」を引き続き行っていきたい。

○先生は、授業やテストで間違たところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれているかについての肯定的回答が95.5%と9割を超えていて栃木県、全国の平均よりも高い。今年度の本校の重点指導事項である「基礎・基本の定着」の中の「間違いを大切にしたい学び合い」「繰り返し練習の工夫」を引き続き行っていきたい。

●今住んでいる地域の行事に参加しているかについては肯定的回答が48.3%と低く、栃木県、全国の平均より10%以上低い。本校は街中にあるため、他地域よりも伝統的な行事などが少ない環境や家庭環境の影響も考えられるが、学校でも社会の授業などで地域によさや地域の名所、行事などを伝えていきたい。

3 学習について

○国語の授業で、「書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章の良い所を見付けている」と回答した児童の割合は73.1%で全国平均を2.1%上回っている。今後、各教科において他者と関わり合い協働的な学びが活発に行われるよう、相手の話を聴く力の育成とともに、ねらいを明確にした話し合い活動を設定し、指導をしていきたい。

●授業で学んだことを、ほかの学習に生かしているかと回答した児童の割合が70.8%で、全国平均・県平均を10ポイント以上、下回っている。各教科が独立したものだと感じている児童が多いことが分かる。今後は、各教科の関連を意識できるような授業づくり力を入れ、児童が様々な教科が繋がっているということ理解できるように指導していきたい。

○家庭学習の課題(宿題)として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声や動画を聞いたり英語を話す練習をしたりしているかについては、半分以上の児童が月一回以上と回答した。タブレットでの英語教材を有効に活用し、自ら英語を聞いたり、話したりする練習に取り組んでいることが分かる。

○●英語の学習は大切だと思うと回答した児童の割合は91%と高いが、将来、積極的に英語を使うような生活を送ったり職業に就いたりしたいと回答した児童は50.5%とあまり高くないことが分かる。この結果から、英語の必要性を感じてはいるが、英語を実際に使うことに対して、自信がもてない児童が多いということが考えられる。タブレットを有効活用し、家庭でもいつでも英語の学習ができるようにすることで、児童が自信をもてるまで練習できるようにしていきたい。また授業内においては、英語を正しく使うことよりも相手とのコミュニケーションをとれる楽しさを感じられるような授業展開を目指していきたい。

宇都宮市立築瀬小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
追究意欲を高められるような学習課題の設定	全ての学年で、どの教科においても実社会や実生活に関わる教材などを積極的に取り入れながら児童が自分事として学習に取り組めるような導入の工夫を行っている。	「5年生までに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいましたか」の質問に肯定的に回答した6年生児童の割合が、昨年度5年生だったときと比べて約3ポイント増加している。
児童同士が学び合える活動等の工夫	学習形態を工夫したり、タブレットを活用したりするなど、自分の考えと友達との考えを比較検討できる場面を多く設定している。	「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問に肯定的に回答した6年生児童の割合は、国や県と比べて約16ポイント以上上回っている。しかし、話し合い活動についての質問については約6ポイント以下下回っている。このことから、にタブレットを使用しているが、意見交換の媒体として活用することがまだ不十分であることが伺える。
主体的な学びにつなげる振り返りの充実	その授業で身に付けさせたいことについて、振り返る際に観点を示し、自分の学びに付いて自己評価できるようにしている。	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問に肯定的に回答した児童の割合は69.6%と国や県と比べて大きく下回っている。その授業について振り返ることはできているが、次の学習につなげて学びの見直しをもつことが未だできていないことが分かる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査では、国語・算数において資料の読み取りや活用があまり理解できていないことが分かった。書くことについて学年で差が見られることが分かった。	様々な場面での資料の活用 発達の段階に応じた書く題材の選定	教科の学習で資料を積極的に活用し、その資料からどんなことが分かるかを授業中に繰り返し取り上げていく。 書くことへの習慣化を図るため、自分の言葉で児童自身が振り返りを書く時間を設けたり、モジュールタイムを活用し書く活動を行っていく。